

# ふるさと見て歩き

## 第75回

### 鏡岩

山方地域照山地区  
字鏡石には、昭和十一年に茨城県の天然記念物に指定された「鏡岩」があります。

現在は、風化によって鏡のようには見えませんが、平らな石の面は、かつては磨かれた鏡のようだったことをうかがわせます。

鏡岩は、今から一三〇〇年前には既に

著名な産物として知られていました。

奈良時代の養老五年（七二二）に編さんされたといわれ、日本最古の地誌の一つとされる『常陸風土記』には、「東山石鏡、昔在魍魅、萃集甞見鏡、則自去（云）」（東の山に石鏡があり、昔、魍魅（怪物）が集まって鏡をもてあそび、立ち去った）という記述があり、この「石鏡」が鏡岩と理解されています。

江戸時代になるとさらに多くの地誌に記述されるようになります。

文化四年（一八〇七）、水戸藩の学者小宮山楓軒によってまとめられた『水府志料』のうち、「生井澤村」（現在の照山）では産物として特に「月鏡石」を挙げ、「鏡山といへる散野にあり。鏡のくもれる如く色薄黒し。



▲鏡岩

面平らかにして光りあり」という解説を加えています。

また、江戸時代後半の天保年間（一八三〇〜一八四四）に成立した、常陸国の地誌の代表格である『新編常陸国誌』の中の「月鏡石」の項には「又、久慈郡生井澤村鏡山ト云処ニ、月鏡石ト云アリ、面平ニシテ光アリ、殆鏡ノ如シ、近年人取テ以テ甞物トス。或ハ硯ニ作ル、コノ村ハ河内郷ノ内ナレバ、風土記ニ所謂ル石鏡ハ即コノ月石鏡ナリ」とあり、生井澤村の月鏡石が『常陸風土記』の「石鏡」であるといっています。また補注で、物影をよく映す様子が月のようでも鏡のようでもあるため「月鏡石」という美しい名前と呼ばれること、月鏡石は一丈（約三メートル）

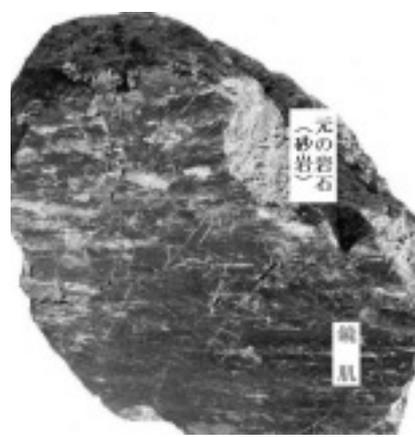
四方の場所からしか産出せず、かつては領主の許可がなければ掘り出すことができなかったこと、また筑波山にも月鏡石があることを伝えています。

#### ◇鏡岩のできるまで

地質学的に、鏡岩はどのようにして形成されたのでしょうか。鏡岩は、新生代第三紀中新世西野内層（Ⅱ浅川層）に残された、およそ一七〇〇万年前の断層運動地震の痕跡です。

西野内層中の礫質砂岩（小石を含む砂岩）が断層運動でずれて切断されたことにより断層面（すべり面）が形成され、その断層面がその後幾度かの断層運動で擦られることにより、滑らかで「ピカピカ」の光沢を持つ状態となりました。

光沢を持つ面は地質学では「鏡肌」とよばれます。断層面の方向は北西―南東方向で、傾斜はほぼ垂直です。鏡肌はどんな地層でも形成されま



すが、鏡のような光沢となるには硬い地層でなければなりません。太古の出来事ですが、硬い地層を「切断して磨き上げた」断層運動と、それに伴い発生した地震は、想像を絶する大きさであったと推測されます。

大昔から人々に親しまれてきた珍しい鏡岩を一度ご覧になってみてください。



「写真提供」菊池芳文氏  
「参考文献」企画展パンフレット『常陸大宮の地下資源』（執筆菊池芳文）

□歴史民俗資料館では、鏡岩をはじめとして、市内で産出する身近な鉱物や歴史的に著名な鉱物、珍しい貴重な地下資源を集めた企画展「常陸大宮の地下資源―地域をささえた宝物―」を三月三日まで開催しています。どうぞご来館ください。

歴史民俗資料館大宮館  
☎52-11450